

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立川津小学校）

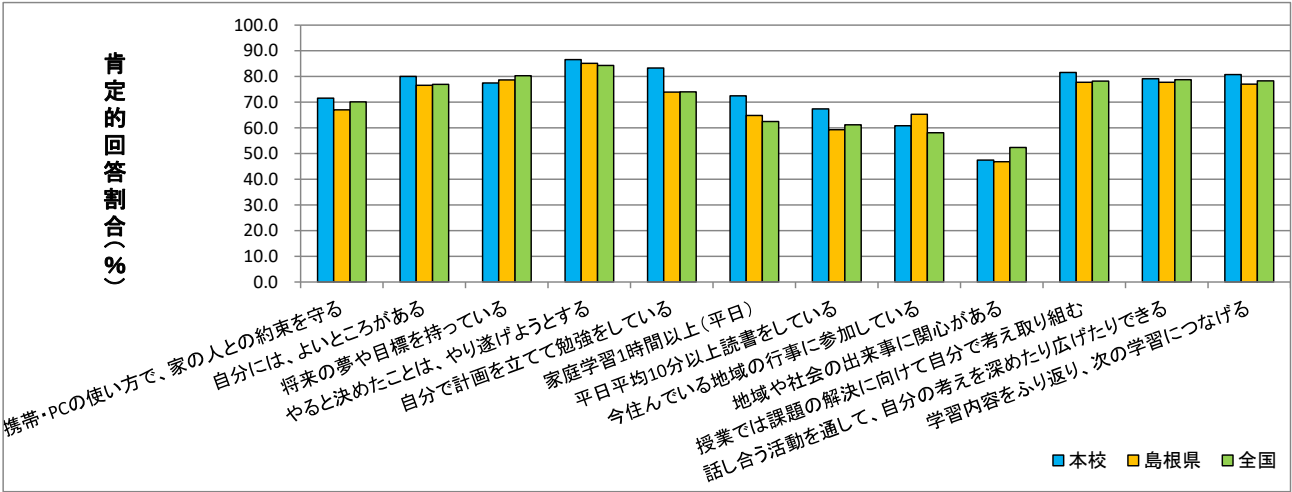
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○漢字の正答率が高かったことと、要約する問題もよくできていたことは、「書き取り会」や「新聞記事要約」の継続的な取り組みの成果が感じられる。 ●資料を使って話すこと、文章全体の構成や展開を考えて書くことを苦手としている。	・対話タイム、スピーチ活動を継続し、話す楽しさを感じられるようにすることと、各教科で資料と結び付けて発表する機会をつくっていく。 ・各学年の国語の「書く」単元を丁寧に学習し、低学年から文章の組み立てを意識しながら書いたり読んだりする力をつけていく。
算数	○前回課題としてあがっていた「数と計算」領域の正答率が高く、式の意味理解がよくできていることがうかがえる。 ●図形領域では、面積を求める問題に課題が見られた。また、長文の問題では、問われていることの意味理解が難しい傾向がある。	・図形の学習では、操作活動を多く取り入れ、体でイメージをもてるようにしていくことと、定期的に復習をして積み上げていくこと。 ・問題文の読み取りが正しくできるようにするために、ふだんから、教科書やノートに線を引いたり、大事な言葉に印をしたり、書き込みをしたりする習慣をつけていく。

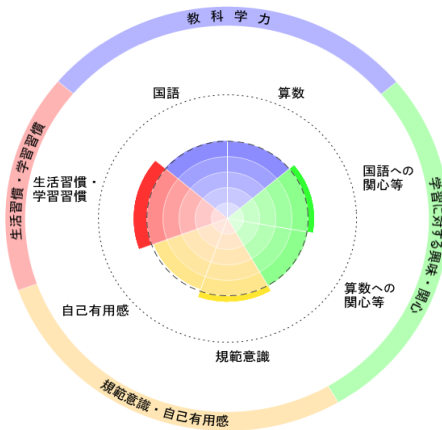
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○自分で計画を立てた学習し、家庭学習の時間もしっかりとることができている。前回少なかった読書時間も確保できている。 ●将来の夢や目標をもっている児童がやや少ないことと、地域や社会の出来事についてあまり関心をもっていない児童がやや多い。	・学習を通していろいろな人と会う中で、自分の将来について考える時間をつくっていく。 ・キャリア教育、ふるさと教育などを充実させる。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科、行事、委員会活動などを通して、相手に伝わる声や話し方、また、意図に合った内容で話す力をつけていく。同時に聴く側も意図にそった質問が言えるよう、考えながら聴ける力も育てていく。

【受検者数】 117 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。